

開館2年目、さらに学びたくなる資料館をめざして

平成25年4月27日から開催した開館1周年記念、特別企画事業も5月31日で無事閉幕となりました。

1周年の節目として、初めて開催した企画展でしたが、資料館HPや関係施設などへの宣伝、マスコミによる報道の効果もあり、期間中は、延べ3,134人もの来館者がありました。1日あたりの来館者数は、101人と、実に今年4月から企画展を開催する前日までの平均来館者数の約2倍となる、大変多くの方々に訪れていただきました。また、開催から6日目となる5月2日（木）には、ついに入館者数も「4万人」を超えました。

開館2年目も、子どもたちをはじめ幅広い年代の方々にイタイイタイ病の恐ろしさや克服してきた歴史を学んでいただき、来館のたびに環境と健康について新たな学びにつながるような取組みを積極的に行っていきます。



英語・中国語版のガイドンス映像でイタイイタイ病を学ぶ

5月の団体見学も前年の約2倍の23団体の方々に来館していただいています。このうちの2団体は、海外からの来館となりました。5月18日には、北京大学から現代日本の政治・経済・文化などを研修する目的として、訪日した学生約30名が訪れました。また、25日には、富山市民国際交流協会のメンバーで、県内で英語を教えているALT（外国語指導助手）を含む15名が来館され、いずれの団体もそれぞれの母国語による展示ガイドブックや音声ガイドンスを利用して、展示室内を興味深く見学されていました。2階の交流学習ルームでは、昨年度、環境省の委託事業により整備した外国語版（英語・中国語）のガイドンス映像を視聴されました。上映するのは今回が初めてで、約15分でまとめた映像を通じて、各々、理解を深めていただきました。

資料館の設置場所が富山空港に近いという地理的な要素もあり、海外からの来館者も増えています。資料館では、来館される海外の方々とも交流の輪を広げ、イタイイタイ病の教訓や克服した歴史を広く伝えていきます。



5/18

展示室を見学する北京大学の学生



5/25 英語版ガイドンス映像初上映